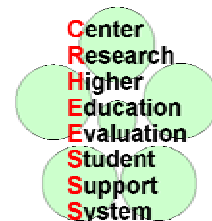


# 週刊センターニュース No.53



第53号(2005年3月18日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 共同学習会のご案内

第66回 日時: 3月22日(火) 16:20~17:50

会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室

報告者: 日向 繁(学生部学生支援課課長補佐)

題目: 「新設されたボランティア相談窓口について」

趣旨: 学生部に今月新設されたボランティア相談窓口が、どのように機能すべきかについて、他大学の取り組み例などの紹介を交えて、問題提起する。

第67回 日時: 3月24日(木) 10:00~11:30

会場: 総合教育棟南棟2階 大会議室

報告者: 清原 岑夫(金沢大学 元教授)

題目: 「大学教育学会について」

## コンファレンス「専門職大学院の将来と認証評価」開催報告

3月5日、金沢大学主催で当センター企画のコンファレンス「専門職大学院の将来と認証評価 法科大学院を手がかりに」が開催された。約70名の参加者を得て、講演、パネルディスカッションにより、法科大学院の認証評価、法科大学院教育の現状や今後の課題が多方面から浮き彫りにされた。

文部科学省専門教育課長の杉野剛氏による記念講演「我が国の高等教育改革と専門職大学院」、日弁連法務研究財団常務理事の飯田隆氏による基調報告「法科大学院の現状・課題とその評価」に引き続き、パネルディスカッションでは法科大学院の認証評価に当たることが予定されている3機関(日弁連法務研究財団、大学評価・学位授与機構、大学基準協会)からそれぞれの評価の特質が述べられた。同時に、評価を受ける法科大学院(新潟大学、国学院大学、金沢大学)からも、教育の現状の説明とともに認証評価機関に対する意見が述べられた。密度の高い充実した議論が展開された。

第三者評価という言葉から受ける印象とは異なり、優れた法曹の養成という目標を法科大学院と共有するとともに、評価が大学院教育の支援に結果として結びつくものでありたいという認証評価機関の強い意気込みが伝わってきた。日弁連法務研究財団は、すでに3つの法科大学院のトライアル評価を実施しているが、大学院と評価機関との間での率直な意見交換、批判が黎明期にある評価システムを完成させていく上で極めて重要であること、評価機関もまた大学院教育についての調査研究を行う必要があることを強調された。

当センター長の青野が開会挨拶で述べたように、高等教育における教育評価とFDなど教育改善の両面から法科大学院は現在注目の的となっている。今後も教育評価と教育改善とがいかにリンクして発展していくかについてその推移を見守っていく必要がある。(文責 西山)

## 第2回大学教育セミナー開催報告

3月1日、当センター主催の第2回大学教育セミナー「学士課程教育の再構築について考える」が開催された。関西大学の山本冬彦教授、九州大学の副島雄児教授、京都大学の田中毎実教授をお迎えしてカリキュラム改革や授業実践についてご講演いただいた。学外者を含め40名近くの参加者を得

て、質疑応答も活発に行われた。

多様な、より幅広い層の学生に対して大学教育はいかに対応すべきかという観点から、近年学士課程教育を見直す動きが活発化している。今年1月に出された中央教育審議会の答申もその必要性に言及している。一つの動きがコアカリキュラムの設定である。大学での学習の基盤となる技能の養成、教養教育、専門基礎教育などいくつかのレベルでコアとすべき教育内容が検討され導入されつつある。多様な学生に対して、従来以上に習熟度を考慮したメニュー化された教育内容を提示することにより、高い教育効果が期待できる。しかし、大学教育の目的が自律性、そして自律性に基づく創造性の養成であるならば何か足りない気がする。今回お話を伺った関西大学と九州大学の教育システムは一つの答えを示しているように思えた。

関西大学文学部は今年度より、従来の8学科を1学科10専修に改組するとともに、各学科ごとに学生を募集していたところを一括募集とし、1年生から2年生へ進級する際に各専修に所属させるシステムに改めた。来年度からは専修は15専修に増える。テーマプロジェクトと呼ばれる2年サイクルの短期プロジェクトを立ち上げ、3年進級時の学生10~20名を所属する専修によらず募集し卒業指導までを行う新たな専修とする。つまり専修はダイナミックに生成消滅させることが可能なシステムになっている。学生から見ると、初年時に将来の進路をじっくりと考えるチャンスを与えられるとともに、3年進級時においても再度進路を再考することが許される。

九州大学の21世紀プログラムは、学生定員は20数名の小規模なものであるが、学生はどこかの学部にも所属しているものの当該学部カリキュラムには従わず、21世紀プログラムのチューター教員の指導のもと学生自身の方針に基づいて理系文系学部にもまたがって独自の科目履修を行い、九州大学の中での学生独自の出口を見つけさせるというものである。

関西大学、九州大学の取組は、学生自身が自分の興味を自ら見つけるプロセスにおいてこそ最大の教育効果が期待できるという信念に基づいている。一方で、いずれの教育システムにおいても十分に設計されたコアカリキュラムが用意されている。

京都大学の田中先生には、カリキュラムから離れ、近年の全国的なFD活動の現状についてご自身の授業分析も交えてお話いただいた。各教員はそれぞれ独自に様々な授業の工夫を行っている。問題は、そのようなノウハウが各個人に閉じており、次の世代への継承がなされないことであり、損失であるとの主張であった。授業という要素に問題がなく、そしてそれら要素が組織化されてはじめてシステム、つまりカリキュラムが機能することを考えさせられた。

今回の3名の先生方による講演は、3学域への統合に向かう本学にとっても示唆に富んだ貴重な内容であったと思う。（文責 西山）

## センター教員活動記録

- 2005.2.17 平成16年度金沢大学教育学部FD研修会「大学教育の特性に対応できる学生の育成」にて「大学生になることを支援するゼミナールの試み」について報告（青野、西山）
- 2005.2.22 金沢大学文学部FD研究会「学生の心、学生の選択」に参加（堀井）
- 2005.2.23 大学教育学会初年次教育導入教育研究委員会主催 公開研究会「初年次教育の世界的動向～背景と成果の比較研究～」に参加 会場：兵庫県農業会館（西山 公費出張）
- 2005.3.1 センター主催 第2回大学教育セミナー「学士課程教育の再構築について考える」開催
- 2005.3.5 金沢大学主催、センター企画コンファレンス「専門職大学院の将来と認証評価 法科大学院を手がかりに」開催
- 2005.3.10 金沢大学工学部第6回教育方法改善シンポジウムに参加（青野、西山）
- 2005.3.15 金沢大学理学部第2回FDシンポジウムに参加（西山）